

伊豆長岡温泉、温泉分析書

泉質と効能

源泉名 伊豆長岡温泉 泉
質 アルカリ性単純温泉
pH値 9.3
泉温 62.5度

適 応 症

筋肉若しくは関節の慢性的な痛み
又はこわばり(関節リウマチ、変形性
関節症、腰痛、神経痛、五十肩、打
撲捻挫などの慢性期) 運動麻
痺、冷え性、末梢循環障害、胃腸機
能の低下(胃のもたれ、腸にガスが
溜まるなど)、軽症高血圧、耐糖能
異常(糖尿病)、軽い高コレステ
ロール血症、軽いの喘息又は肺気
腫、痔の痛み、自律神経不安定症、
ストレスによる諸症状、病後回復、
疲労回復、健康増進

泉質別適応症 自律神経不安定
症、不眠症、うつ状態

禁 忌 症

病気の活動期(時に熱のある時)活
動性結核、進行した悪性腫瘍又は
高度の貧血など身体衰弱の著しい
場合、少しでも動くと息苦しくなるよ
うな重い心臓病又は肺の病気、むく
みのある腎臓の病気、消化管出血、
目に見える出血がある時、慢性の病
気の急性増悪期

1. 申請者 伊豆の国市長岡1153-5 伊豆長岡温泉事業協同組合

2. 源泉名 伊豆長岡温泉 (混合泉)

湧出地 多門4号、長岡3.5.9号泉、古奈菊の湯、組合1号泉他 地区内30源泉 動力揚湯、500m
採取地 伊豆の国市長岡1157-2 第一貯湯槽

3. 採水地における調査及び試験成績

調査及び試験者 一般社団法人静岡県生活科学検査センター 静岡県第1号 谷雅博 長谷川祐介

調査日 2024年8月15日 (気温32.0°C)

湧出量 1,847.1 ℥/min 泉温 62.5°C

知覚的試験 殆ど無色、透明、無味、無臭、ガスの発生無し

水素イオン濃度 9.3 電気伝導率 86.2 mS/m

4. 試験室における試験成績

試験者 一般社団法人静岡県生活科学検査センター 静岡県第1号 谷雅博 小田祐史

分析終了日 2024年9月5日

知覚的試験 殆ど無色、透明、無味、無臭

密度 0.9992 (20°C/4°C)

水素イオン濃度 9.26 蒸発残渣物 0.614 g/kg (110°C)

5. 試料 1 kg 中の成分、分量及び組成

成分(陽イオン)	mg/kg	mval/kg	mval %
ナトリウムイオン	176.7	7.69	87.29
カリウムイオン	3.0	0.08	0.91
カルシウムイオン	20.9	1.04	11.80
鉄(II)イオン	0.1	0.00	0.00
陽イオン計	200.7	8.81	100.00

成分(陰イオン)	mg/kg	mval/kg	mval %
炭酸水素イオン	16.9	0.28	3.17
炭酸イオン	18.8	0.63	7.13
水酸化物イオン	0.3	0.02	0.23
塩化物イオン	141.8	4.00	45.25
硫酸イオン	181.1	3.77	42.65
リン酸水素イオン	0.1	0.00	0.00
メタ亜ヒ酸イオン	0.2	0.00	0.00
メタホウ酸イオン	6.0	0.14	1.58
陰イオン計	365.2	8.84	100.00

成分	mg/kg	mmol/kg
メタケイ酸	65.0	0.83
非解離成分計	65.0	0.83

溶存物質(ガス性のものを除く) 0.631 g/kg

※溶存ガス成分 無し (検出されない)

成分総計 0.631g/kg

その他微量成分	mg/kg	その他の微量成分	mg/kg
マグネシウムイオン	<0.05	臭化物イオン	<0.05
アルミニウムイオン	0.06	ヨウ化物イオン	<0.05
マンガンイオン	<0.05	チオ硫酸イオン	<0.1
鉄(III)イオン	<0.05	総硫化水素	<0.1
銅イオン	<0.05		

6. 泉質 アルカリ性単純温泉 (低張性・アルカリ性・高温泉)

上記分析書は原本と相違ないことを証する

発行日 2024年9月6日

発行者 伊豆長岡温泉事業協同組合

◎温泉利用浴用にあたっての注意◎

禁忌症について

禁忌症は、1回の温泉入浴又は飲用でも、有害事象を生じる危険性がある病気・病態である。なお禁忌症にあたる場合でも、専門的知識を有する医師の指導のもと温泉療養を行うことは妨げない。

1. 入浴前の注意

ア 食事の直前、直後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。

イ 適度の疲労時には身体を休めること。

ウ 運動後30分程度の間は身体を休めること。

エ 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。

オ 浴槽に入る前に、手足からかけ湯をし温度に慣らすとともに身体を洗い流すこと。

カ 入浴時、特に起床直後の場合は脱水症状等にならないようにあらかじめ水分を補給しておくこと。

2. 入浴方法

ア 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は42°C以上の高温浴は避けること。

イ 心肺機能の低下している人は全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。

ウ 入浴開始後数日間は、1日あたり1~2回とし慣れてきたら2~3回まで増やしてもよいこと。

エ 入浴時間は入浴温度により異なるが1回あたり初めは3~10分程度とし、慣れてきたら15~20分程度まで延長してもよいこと。

3. 入浴中の注意

ア 運動浴を除き一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。

イ 浴槽から出るときには、立ち眩みを起こさないようにゆっくりとすること。

ウ 浴槽内でめまいが生じ、または気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めるつ、浴槽から頭を低い位置保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

4. 入浴後の注意

ア 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分をふき取り着衣の上保温及び30分程度の安静を心がけること。なお浴槽が塩素消毒を行われている場合には温泉成分を洗い流すほうが良いこと。

イ 脱水症状等を避けるため、コップ1杯程度の水分を補給すること。

5. 湯あたり

ア 温泉療養開始後、おおむね3日~1週間前後に気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがあるが、その場合には入浴を中止するか回数を減らし回復を待つこと。

6. その他

浴槽水の清潔を保つため浴槽にタオルは入れないこと。

温泉療養を行う場合には以下の点を理解して行う必要がある。

① 温泉療養の効果は、温泉の含有成分などの化学的因子、温熱などの物理的因子、温泉地の地勢気候利用者の生活リズムの変化などによっておこる総合作用などによっておこる生体反応であること。

② 温泉療養は、特定の病気を治癒させるのではなく、療養を行う人の症状、苦痛を軽減し健康の回復増進を図ることで全体的改善効用を得ることを目的とすること。

③ 温泉療養は短期間での精神的なリフレッシュなど相応の効果もあるが、十分な効用を得るために通常2~3週間の療養期間を適切とすること。

④ 温泉療養は、療養する人の病期又は状態によっては悪化する場合があるので温泉療養は専門的知識のある医師の指導をもって行われることが望ましいこと。